

科目名称：	障害児保育研究Ⅱ	
担当者名：	中村 明成 小西 ふみ子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
実習ⅠⅡを通してケースカンファレンスを実施し、事例研究を深める。保育計画、保育内容、保育評価にも着目し、研究成果としてまとめる。成果発表会に向けて、自らの実践をふりかえる。		
授業の達成目標・到達目標		
ケースカンファレンスでの保育者とのミーティングで、子どもの姿を理解できているか。特に言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションを受け止め、やりとりを把握できているかどうか。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)			50	50	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》（中村） 障害者支援施設支援員 社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》（小西） 保育士	《経験年数2》 42年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
カンファレンス	自分のケースだけでなく、他のケースについてもよく考え意見を出し合える	自分のケースについて、他者の意見を参考にして話し合える	自分のケースについての話し合いを記録できる	自分のケースについての話し合いが不十分である
成果発表会原稿	カンファレンスをもとに、協力してよく原稿にまとめ、発表につなげられる	カンファレンスをもとに、原稿にまとめ、発表につなげられる	カンファレンスをもとに、原稿を作成できる	カンファレンスの内容を、原稿に反映することが不十分である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーションと学習の進め方	前期の学びの振り返り	40分
第2回 障害児保育を含むしょうがい児(者)福祉サービスのあらまし(復習)	前期の学びの振り返り	30分
第3回 障害児保育を含むしょうがい児(者)福祉サービスのあらまし(復習)	前期の学びの振り返り	30分
第4回 課題図書読み込み(序章～第2章)	事前に読んでおく	60分
第5回 課題図書読み込み(第3章～第5章)	事前に読んでおく	60分
第6回 課題図書読書会	各章のまとめを記録する	30分
第7回 課題図書読書会	各章のまとめを記録する	30分
第8回 課題図書読書会	各章のまとめを記録する	30分
第9回 インターンシップ(現場参加)のまとめ記録作成	現場参加先の情報を理解する	45分
第10回 インターンシップ(現場参加)のまとめ記録作成	現場参加先の情報を理解する	45分
第11回 インターンシップ(現場参加)のまとめ記録作成	現場参加先の情報を理解する	45分
第12回 ケースカンファレンス(グループディスカッション)	カンファレンスをもとに記録を修正する	45分
第13回 ケースカンファレンス(グループディスカッション)	カンファレンスをもとに記録を修正する	45分
第14回 ケースカンファレンス(グループディスカッション)	カンファレンスをもとに記録を修正する	45分
第15回 成果発表会とまとめ	成果発表会原稿作成	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。  
事前事後学修としては、主に現場参加の記録の整理とまとめをすることになる。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

インターンシップの記録のまとめとカンファレンスへの積極的関与。記録(50%)カンファレンス(50%)

#### 課題に対するフィードバック

カンファレンスには教員も参加して、各自のかかわり&記録を評価する。

#### 教科書・参考書

重い障害を生きるということ 高谷清 岩波新書(課題図書として使用する)